

【投稿】「脱原発」で日本国土を守れ

会員 高橋憲一

原子力発電の推進派は、原発を止めれば日本経済の致命傷となりかねないと主張し、原子力を利用する以上はリスクを承知し、国民的な覚悟をして原発を全て稼働させよと迫っている(葛西敬之「R東海会長「原発継続しか活路はない」5月24日付産経新聞)。しかし、最近になって、福島第一原発のメルトダウンは大地震の翌日に起きたとの発表が行われた。これにより、福島原発では津波による電源喪失だけでなく、震度6弱の地震により冷却水配管の断裂が起きたことが実証された。いかに耐震基準を高くしても、金属の弾性限界を超える地震の破壊力には対抗できないことから、私は原発を廃止すべきだとの意見に転向した。日本列島が放射能汚染で生きられない国土となる覚悟などできないからだ。

日本列島は太平洋プレートとユーラシアプレート、フィリピン海プレートそれに北米プレートの交錯する真上にある。従って、大地震が周期的に連鎖して襲う日本を、地震国ではない米国やフランスと同等に扱うことはできない。日本列島の海岸線にずらりと並ぶ54基の原発が、福島第二の舞とならない保証はない。福島原発のメルトダウンにより、10万人以上が放射能汚染から逃れるべく、父祖伝来の土地を離れ、仕事と収入と財産を奪われた農漁業者、工場の従業員と家族らが何年先に戻れるかも分からない避難生活を強いられている。この現実を一顧だにしない経済優先の原発推進派に、生存権とは何か、日本国とは何かと問いたい。